東京納税貯蓄組合総連合会　会長賞

「税が繋ぐちから」

足立区立　六月中学校

三年　井上　佳南

私は、税金についてあまり詳しくない。そこで、税金の仕組みについてからではなく、「税」という漢字の意味から、税について知ることにした。

「税」という漢字を調べてみると、ゼイ、セイ、みつぎ、の他に「ちから」と読むことがあると知った。私は最初、税と書いて「ちから」と読むことに驚いた。なぜ「税」を、「ちから」と読むのか気になったので調べていくと、税と人々の働く力には深い関係があることが分かった。

昔の税は、現在のようにお金だけで納められていたわけではない。人々が作った米や布などを納めたり、労働力を提供したりすることも税の一つだったという。つまり、税は人々が持っているお金だけでなく、働く力や生み出すによっても成り立っていたのである。私は、「税」を「ちから」と読むことには、人々の力によって社会が支えられてきたという意味がこめられているのではないかと思った。

そして、この考えは現代にもつながっていると思う。現在の税金は、学校や道路の整備さらに、消防や警察、ごみの処理など、私たちの生活を支えるために使われている。しかし、それらを支えているのは税金だけじゃない。税金を納めるために働く人や、税金により支えられる仕事をしている人など、多くの人の力があ

って社会は成り立っている。

私は今まで、税金は「大人になったら払うもの」というくらいにしか考えていなかった。しかし今回調べてみて、税金は単に国にお金を納めることではなく、一人一人の力を社会につないでいくものだと考えられるようになれた。

今の私はまだ税金を納める立場ではない。しかし、将来働くようになれば、私も自分の力で社会を支える一人になる。そのときには税金をただ払うものと考えるのではなく、自分の力を社会のためにつなげるものだと考えを持ちたい。

「税」、と書いて「ちから」と読む。その言葉には、人々の働く力によって社会が支えられてきた歴史と、これからも一人一人の力で社会をつくっていくという意味が込められているのではないだろうか。私はこれから、税をただのお金ではなく、社会を支える、「ちから」として考えていきたい。